
コンプレックス

並盛りライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

コンプレックス

【Nコード】

N5930B

【作者名】

並盛りライス

【あらすじ】

先輩は眼鏡が似合うしカッコいい。怒りっぽい所はあるけれど…
…そのままが一番先輩らしいです。

冷蔵庫から取り出した、小岩井のコーヒーマイルクはよく冷えていて、手にとると指先が桃色に染まった。それをソファ放り投げ、お気に入りのフードつきパーカーを被る様に着込んだ私は、どっかりと腰掛けた。

糖分が体に染みこんでいくような錯覚を覚え、体が疲れきっているときは、特に糖分を摂取したいと思うようになる。固形のチョコやその類の洋菓子でも好いのだが、やはり液体の方が糖分を摂っていると実感できる。

「そんな甘そうな飲み物がよく飲めるなあ、お前」

「甘いもんは疲れた体に良いんですよ」

「甘いものは体に悪いに決まっている」

反対に、橘先輩は甘いものが大嫌いだ。いつも何故か野菜ジュースを持ち歩いている。

「野菜ジュースなんて飲んだら、そのうち脳が溶けて、歯がボロボロになって……」

「どこで、そんなデマを吹き込まれた？」

いつも怒っているような口調の癖に、実際に怒っている時と口調が変わらないのはどうしてだろうか。そんな事を考えながら橘先輩の顔を見ると、先輩も同じように私の顔を見ていた。

「なんですか？」

「え？」

「だって、急に私の顔をジロジロと……顔に何かついてますか？」

私は低いテーブルの上にあった黒い手鏡を手にとった。

「なんでもねえよ、ただ……」

「ただ？なんですか？」

「ただ、なんでそんなに無防備な顔ができるのかなと思って」

「私がアホ面だって言いたいんですか？」

手鏡に映った自分の顔をよく見ると、たしかに賢そうには見えな
い。橘先輩は、それに比べて眼鏡のせいか、如何にも優等生に見え
た。

「私も眼鏡でも掛けようかなあ」

「……なんでそうなるんだ」

気付くと小岩井は空っぽで、糖分が私の体に充填されたようだ。

「先輩がカツコいいのは眼鏡のせいでしょ。うん、そうに違いない」

「なに一人で納得してるんだよ」

「ほら、またそうやって先輩は怒る」

「別に怒ってねえよ」

「糖分足りて無いんじゃないですか」

「うるせえ」

私は先輩の怒っているのか、怒っていないのか分からない口調が結
構好きかもしれないと、少しだけ思った。

「先輩の野菜ジュース、一口くださいよ」

「なんで？」

「少しは頭が良くなるかも」

「ならねえよ、そんなの。それに眼鏡なんか掛けても頭よくならな
いし」

そう言うと、先輩は野菜ジュースを飲み干した。

「先輩のケチ」

「そういう問題じゃねえって」

「じゃあ、どうゆう問題なんです」

自分でも珍しく思ったが、私は先輩に突っかかった。

「実は俺、眼鏡掛けるのが、すごく嫌で、眼鏡掛けてる俺も嫌いな
んだ。カツコ悪いし、がり勉みたいで……」

なぜか悲しそうな先輩を見るのが私は嫌だった。

「先輩、カツコ悪。そんな変な事言う先輩はカツコ悪いです。眼鏡
掛けてない先輩なんて先輩じゃないし、そのままの先輩が一番カツ
コ良いし、先輩らしくないし、先輩ケチだし」

私は早口で言うと、先輩から眼鏡を奪った。

「どうだ、私の方が眼鏡が似合うんじゃない……」

強烈な視界の歪みが私を襲い、立っているのがキツイくらいだった。

「おい、やめろって。返せよ」

「やだ」

私は何とか目を瞑ってソファに座り、眼鏡を抑えた。

「ふざけてる場合か、本当に目が悪くなったらどうする気だ」

先輩の手を拒絶して、私は眼鏡を取られるのを防いだ。

「いやです。先輩が眼鏡掛けないなら私が掛けます」

「お前には眼鏡は似合わないって、いいから返せよ」

先輩の意外に大きい手が、私から眼鏡を奪っていった。そして、そこにはいつもの眼鏡を掛けた先輩が居た。

「いいよ、俺が掛ける」

怒った様な口調も先輩のままだった。

「眼鏡、似合ってますよ先輩は……。私より何倍もカッコ良いです」

「お前が似合わなさすぎなんだよ」

先輩は少しだけ笑いながらそう言った。笑った顔もそんなに嫌いじゃないな、と私は思った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5930b/>

コンプレックス

2010年10月13日19時17分発行